

みなみぶちよーの スポ根的美容塾

目撃されてもいいお顔

先日「◎◎でみなみぶちよーさんお見かけしました!とお声掛けいただきドキリとしたことがありました。人前に立つ時はメイクはしっかりして服装にもそれなりに気を遣いますが、そうでない時は私だって、すっぴん状態に眼鏡にキャップ、服装もテキトーということも多いです。はてさて、その日はどちらの私であったろうか…?思わず記憶をたどってしまいました。こういった経験皆さんもあるんじゃないですか?

何故か知り合いとは「こんな日に限って!」遭遇してしまうもの。何時でも何処でも完璧な自分でいられれば問題ないでしょうが、それだと疲れてしまいますしTPOを考えると常にフル装備のもの如何なものか。家の近所を散歩する程度の時はやはりカジュアルな装いを楽しみたいものです。しかしその塩梅がなかなか難しく、特に小さなお子さんをお持ちのお母様方は少しでもメイク時間は短縮したいという気持ちをもたれるものでしょう。

それでは、最低限の時間と労力で完成する「人と会ってもギリギリ恥ずかしくないメイク」とは、これを考える際は逆に時間をかけてしまっている面倒くさい箇所を思い出してみてください。多くの方はベースメイクとアイメイクと答えるのではないのでしょうか?それなら、その2つを思い切って省略してしましましょう!

私自身最低限メイクに必要なのは「チーク」と「リップ」だと思っています。これだけならそう時間はかかりませんよね?チークやリップはお顔にツヤと血色を与えてくれるもの。これだけは外せません。またベースメイクをしないくともチークがあればお肌のアラは誤魔化すことが可能です。

そもそも「すっぴん」という言葉の語源は「素でべっぴん(美人)」であると聞いた覚えがあります。やはりまずは美肌ツクリかねえ〜と遠い目をしたくなってしまうものですが、自信を持ってカジュアルな自分を披露できる「すっぴん」を目指したいものです。



冷泉荘 プロデュース スペースRデザインの レトロビルこぼなし

リノベーションがまちを変える

スペースRデザインの代表・吉原が講演をさせて頂いた静岡県富士市の富士山まちづくり株式会社さんから、冊子が届きました。富士市でどのようなリノベーションが行われているかが在り在りと綴られた誌面からは、「リノベーションがまちを変える」というタイトルの通り、今後富士市がどのような魅力的なまちになっていくのか期待させられました(なんか偉そうですが)。

中でも、「結局は人のつながり」という一文には、冷泉荘と共通するものがあるような気がしました。新しくきれいで殺風景な建物もありますし、古くとも賑やかな建物もあります。結局は新しいか古いか以前の問題で、魅力ある場所に人が集まるのだと思いますが、歴史ある建物はすぐに作る事ができませんし、そこに魅力を感じる人もいます。

私は静岡に住んでいた時期がありますが、東海道沿線には魅力ある歴史や文化が沢山あります。これは福岡で望んでも手に入らないものだと思います。

◆富士山まちづくり株式会社

<https://ja-jp.facebook.com/fujisan.machidukuri>

森多恵子 (吉原住宅有限会社 なんちゃって編集長)



ラウレア・ヨガ&ピラティススタジオの 笑顔になれる ココロYOGA



胸のチャクラを開く

家にこんなストレッチポールなんてないと思うので、代用はクッションでも大丈夫ですよ。背骨を引きのばすと本当に気持ちいい。

胸には第4チャクラがあり、ハートチャクラとも言われています。限りなく純粹で思いやりに溢れた愛し方ができる能力をつかさどります。このチャクラを活性化すると人を引き付ける、そして、癒す力が身につくと言われています。また、この部分が閉じていると誰かを許すことや無条件の愛を与えられることもなく、悲しみや苦しみがあふれ出てくるのです。胸を張って堂々と、そして背中を伸ばして、笑顔で向き合えるようになっていきましょう。

姿勢が悪く、いつも腕組みなんかしている人って、難しそうでもんね(笑)それでも自分を持っているのならそれでいい。でも、意味なく人を拒絶せずオープンで人間関係晴れ晴れと生きていけたらさわやかな感じ、風通しのいい心になるのかな〜と。

今回はヨガをする前のストレッチですが、何事もなぜやるか、なぜそれが必要なかも大事だと私は思うのですよ。いかがですか?

hitoyo [laule'a studio ヨガ&ピラティス]



対人レンズ



もう!なんてかわいいTシャツなんでしょう! サザエさんのアウトラインにサザエさんコミックがピッチリなデザインがすぐに目に留まりました。実は、サンダーさんの派手なシャツに隠れたこのインナーTシャツでは、様々なアート作品が隠されている裏技的な着こなしをしているんですね。すかさずシャッター押させていただきました◎

撮影: 雨宮康子

ホークスタウンにセレクトショップを構える e-acce.xモモクリのスタッフが九州を中心として活躍中のクリエイターに直撃取材!



九州クリエイター列伝



Vol.9 独特のデザインセンスの持ち主 Emizoku by Eg デザイナーに直撃

下條恵里(以下[E]): アクセサリーを作ろうと思ったきっかけはいつくらいから?

Emizoku by Eg(以下[E]): ん〜。きっかけ…。友達に誘われてパーツ屋さんについていた事ですかね。沢山パーツがあって、何となく好きなパーツを選んだのがはじめてだったかな。それから、たまたまカフェでエリ先生のアクセサリー教室に参加して、それでちゃんとした作り方を習って本格的に始めました。笑。趣味がなかったから、何かしたいな〜って。それが一番のきっかけかな。かれこれ、5年くらい前かな。

下: (私はよく周知しているつもりですが) 皆さんにぜひ、ブランドのコンセプトを教えてください。
E: Emizoku by Eg(エミゾクバイエージ)は、〜異郷の空気を感どこか懐かしく〜をテーマに、シンプルな洋服にインパクトのあるアクセサリーでお洒落を提案させていただくブランドです。アクセサリー一つで、シンプルなコーディネートを上質なオシャレにチェンジさせ、ゴージャスであり、エキゾチックな空気を感させながら、普段使い出来るアクセサリーを目指しています。



下: 制作するうえで心がけていることを教えてください。

E: やはり自分が「かわいい」「かっこいい」って、納得できるものを作る事ですかね。作り手が可愛いって自信をもって言えないと、お客様に恥ずかしいなって思うので。自分のブランドをしっかりと自信を持ってお薦めできる様なものを作る事を心がけています。

下: やってよかったな〜ってことは?

E: お客様に、作った物を気に入ってもらって買ってもらう時かな。やっぱり、お金を出して買っていただける事って、本当にありがたい事だと思うんですね。そんなに気に入ってくれたの?? 本当?? 本当?? ってテンションがあがってしまいます。ありがとう!! って何回も言って握手したい位、嬉しくなります。それが、続けていけるパワーですね。

下: 近い将来どんなことをやっていきたいと思っていますか? また、もっと先の将来は?

E: 近い将来は、もっとEmizoku by Egを沢山の人の知ってもらう為に活動を続ける事ですかね。ずっとやりたいて思っているネットショップにもそろそろチャレンジしたいですね。今はSNSで簡単に個人が発信できる時代になったので、さばらずに頑張らないといけないですね。もっと先の将来、Emizoku by Egを大手のセレクトショップに置かせてもらえる様なブランドに成長させていきたいですね。本当それが夢かな。オシャレな女の子の会話の中に「これ、もしかしてEmizoku by Egのピアス?」「そうそう、買ったの〜。」「かわいい〜。私も欲しかったやつだ、いいな〜。」なんて、会話に出てくる様なブランドになったら良いな。笑

- Emizoku by Eg 取り扱い店舗
 - ・セレクトショップ e-acce.xモモクリ (福岡市中央区地行浜)
 - ・天神ピラレ メンズセレクトショップDSI (福岡市中央区天神)
 - ・Clothing store DOGWOOD (熊本県東区東区東区)
- SNS
 - <Facebook> <http://facebook.com/EmizokubyEg>
 - <Instagram> EMIZOKUBYEG
 - E-mail egirl.company@gmail.com

後記: 初めて会ったのは…と思うとインタビューに出てきた5年前なんだと、その時今と変わらずオシャレで可愛い女の子です。彼女のいいところをひとつ挙げると言われたら、「一生懸命」ってことかな。いや「素直」…いや〜と、ひとつに絞れないほど、いいところがたくさんある彼女です。ぜひそんな彼女のアクセサリー手に取って、たくさんの人にみてほしいな〜★

酒民党员でもある、まちづくり屋さんに聞く!

酒 in 酒話

風とお酒と

北海道余市には、ニッカウヰスキー第一の蒸溜所があります。国産ウヰスキーの父、竹鶴政孝によって建設されました。創業者竹鶴政孝はスコットランドに旅立ち、ウヰスキー造りを学びます。酒造りは保守的な職人の世界ですから、大変な苦勞をして学んだそうです。そのスコットランドで生涯の伴侶リタと出会います。二人の物語をモデルにした

NHK連続テレビ小説「マッサン」が今月末から始まります。二人の素晴らしい出会いと人生はドラマでお楽しみください。今ではハイボールなど皆に親しまれるウヰスキーですが、かつては日本酒でも焼酎でもビールでもない雑酒に分類されていました。ウヰスキー文化が日本に育ってきたのは、多くの人の誠実な努力があったからです。そして楽しく飲んできた呑み人の努力(?)もあったと思います。

余市蒸溜所のパンフレットには、余市の素晴らしい自然と風土が紹介されています。そしてパンフレットにはこう記されています。

「今日の風はいかかでしょうか?」

秋風にふかれながらウヰスキーを楽しみたいですね。